

令和6年度訪問型家庭教育支援推進事業 第2回専門講座

1. 日 時 令和6年9月25日(水) 13:30~16:00
2. 場 所 日高川町農村環境改善センター
3. 参加者 36名
4. 内 容

●発表 『日高川町家庭教育支援チーム「ほっと」の現在地』

発表者 日高川町教育委員会 家庭教育支援コーディネーター 尾崎 久美 氏

◆グループ協議 『参加者の“これでエエんかな？”』

■まとめ 尾崎 久美 氏

□発表内容（県担当者とのインタビュー形式での発表）

家庭訪問3年目を迎えて

1) 家庭の反応の変化

- ・事業開始当初は、玄関ドアを開けてくれない家庭もあったが、服装を工夫する、丁寧に説明することで徐々に理解が広がっていった。
- ・傾聴する姿勢を意識することで、たくさん話をしてくれる。子育てのこののみならず、「大人との日常会話をしたい。」との思いも感じられる。
- ・「こどもが保育所等に通っている時は、保健師や保育士に相談していたが、学校に入学すると相談したいことがあっても、どこに相談すればよいか分からなかった。このように相談する場があってありがたい。」との声が寄せられた。
- ・保護者から支援員に相談依頼があり、学校につないだケースがあった。

2) 学校の反応の変化

- ・事業開始1年目は、夏休み期間で町内の小中学校をまわり、事業の周知や、先生方との顔の見える関係づくりに努めながら情報共有を行った。今では先生方の理解も進み、定着してきたように感じる。また、今年度、初めて県立中学校への訪問を行った。ひとつひとつの積み重ねの大切さを感じている。
- ・学校側から「ほっと」に対して、対象学年ではない家庭への訪問依頼もある。学校との連携を大切にしながら、課題解決に向けての一助となればと感じている。
- ・学校から多くの写真提供を受けて、情報誌を作成している。訪問時に配布する情報誌に自分のこどもが載っていることを喜んでもらっている。



3) 行政部局の反応の変化

- ・保健師として勤務していた時に、学齢期のこどもや、その家庭と行政の関わりについて、課題を感じていた。退職後に家庭教育支援チーム「ほっと」を立ち上げ、教育と福祉の連携の橋渡し役として活動している。
- ・現在、保健福祉課と合同でケース会議を開き、情報共有を行っている。家庭教育支援チームと保健福祉課が一体となって支援していくことが重要と考えている。
- ・保健福祉課での経験を生かして、ケース会議を開くタイミング等も考えて活動している。
- ・日高川町第3期子ども・子育て支援事業計画策定委員になっている。
「ほっと」の活動が明記されることで、より支援の輪が広がっていくことを期待している。

チーム会議 3年目を迎えて

1) 変わらないルール

- ・月1回のチーム会議は、毎回ほぼ全員が出席して行っている。毎月テーマを設定して協議を進めている。
(内容：情報誌の内容や確認、家庭訪問の道順確認、訪問に関する情報共有等)
- ・守秘義務の徹底。
- ・チーム全員で協議しながら活動を進め、小さなことでも教育長や指導主事に報告している。

2) 変えたルール

- ・チーム会議で、今年度の小学校の統廃合に伴い、「こどもや保護者が不安を抱えることが心配される。」ということが話し合われた。協議した結果、対象地区の全戸訪問を実施した。多くの家庭で、統合に対して前向きにとらえている声が多く聞かれた。

3) 学校への情報共有のタイミング

- ・支援員からの気になる報告は、できるだけ早く学校に報告するべきとの思いで活動している。「時間をおいて報告した方が良いのではないか。」という思いもあるが、早期解決に向けて迅速に動くようにしている。報告はできる限り、学校長に直接伝えるように心がけている。



◆グループ協議

テーマ：『参加者の“これでエエんかな？”』

- ・参加者の家庭教育支援活動についての悩みやそれぞれの支援チームでの実践等を共有しながら、協議を行った。
- ・多様な悩みや意見、実践例等が出された。事業を開始したばかりの市町の支援員さん達が、ベテランの支援員さんに「大丈夫ですよ」と後押しされる言葉をかけられるなどの場面が多くみられ、どのグループも前向きな協議を行うことができた。

■まとめ（尾崎 久美 氏）

- ・今回の専門講座の発表にあたり、自身がこれまでやってきたことの振り返りができて良かった。手探りの状態で事業を推進してきたが、家庭教育支援に関わる皆さんが同じ思いをもって活動されていることに安心した。
- ・乳幼児期は保健福祉、学齢期は「ほっと」の活動というかたちで切れ目のない支援を行い、ひとりでも多くのこどもや保護者が笑顔になればと思っている。
- ・転入世帯の家庭の保護者ともよい雰囲気での会話が弾むよう、支援員は積極的なコミュニケーションを心がけてくれている。
- ・訪問支援員の力が大変大きく、いつも感謝している。助けられてチームが成立している。

5. 参加者アンケート

アンケート回答者内訳

訪問支援員	(7名)	家庭教育支援関係者	(10名)	保健師	(2名)
教育行政担当者	(3名)	民生児童委員	(1名)	その他	(2名)

発表について

- ・三年間の話を聞いて良かったです。こちらは始まったばかりなので、まずは認知度を上げ、三年経過した時には、日高川町のように福祉と行政をつなぐ活動になっていけば良いなと思いました。
- ・自分の町でやれていない事を気付きました。すぐに取り組みたいと思っています。
- ・尾崎さんが、これまでの活動を振り返りながら丁寧にまとめてくださったので、自分自身振り返るよい機会になりました。
- ・インタビュー式でとても分かりやすかったです。支援員さん同士のまとまりを感じることができ、大切なことだと思いました。
- ・訪問してよかった！！と支援員さんが笑顔で話され、素晴らしい活動であることを再確認しました。背中をやさしく押してもらった発表でした。



- ・参加者に日高川町の家庭教育支援チームの活動を具体的に知ってもらったいい機会だったと思います。保健福祉課の若い保健師にも活動を知ってもらえてよかったです。
- ・行政部局の計画の中に家庭教育支援チームのことを組み込んでもらうことが大切だと思いました。計画に組み込むためにどんな方法をとっていけばいいのか、考えていきたいです。
- ・発達相談を受けている子どもについては、保健師さんとの連携も大切。
- ・学齢期はなかなか家庭の状況が分かりにくいので、時期を決めて家庭教育支援チームで関わることで、家庭の子育ての課題の解決・見守りができる大切な機会になると感じました。また、今後支援が必要な時の円滑な介入ができることを学びました。
- ・学校や行政部局（保健福祉課）との協力体制、連携が非常に濃いと感じました。自治体の規模により訪問は難しいと思いますが、相談を受けたとき、支援を受けたい人と行政の手助けに違いはないかと思います。「ほっと」のみなさんがどのような活動を行ってきたか知ることができて、大変勉強になりました。
- ・不登校気味の家庭を訪問してお母さんに「話せてよかった、もう一度聞いてほしい」と言ってもらえたのが、嬉しく思いました。
- ・尾崎さんのフットワークは本当にすごいなと思いました。
- ・福祉との連携について「どろくさい連携」をマネしたいなと思いました。
- ・学校との情報共有は大切だと思いますので、学校に信頼されているのは良いと思いました。
- ・「このチームをつかって、一人でも頼ってくれる、応援してくれる人がいれば」という心構えが良いと思いました。
- ・何とんでも「ひとつひとつの積み重ね」が大事だと思います。
- ・各市町村の様子が変わり、私たちのやっている事がこれでいいのかな！と感じました。
- ・質問形式で話を聞きやすかったです。尾崎さんも話しやすかったと思います。
- ・日高川町の「ほっと」さんが、何でも話し合いながらよりよい活動を広げておられるのは、コーディネーターの尾崎さんのお人柄なのだろうなと思いました。3年目を迎え、困っていることや課題と思われることがあれば、それもお伝えいただきたかったなと思いました。

グループ協議について

- ・グループ内に4月からメンバーに加わられた方がいました。訪問先だった保護者が家庭教育支援員になられ、循環できているのが良いなと感じました。
- ・訪問に関して、同じような悩みがあるんだと少しほっとしながら元気をもらいました。訪問回数など考えたいなと思いました。
- ・それぞれの立場の課題がわかり、支援員、福祉行政、学校との連携の重要性がわかりました。
- ・課題がより明らかになりよかったです。（コレでエエ）という強い助言、よかったです。
- ・とてもいい雰囲気グループ協議ができました。各地域で訪問の仕方（関わり方）が違うので、参考になることが多かったです。



- ・橋本ヘスティアさんや、九度山の先生のお話がきけてすごく勉強になり、勇気をいただきました。地域の特性もありますが、家庭教育支援に対する思いは同じで、先輩方に少しでも近づけるよう頑張ろうと思いました。まだまだ迷っている毎日ですが、ありがとうございました。
- ・色々思うこと悩みもあるけれど、続けていくことが大切だと思います。続けることでつながりができ、進んでいくものだと思います。
- ・訪問をしても、直接会えない家庭、なかなか長く話が聞けない家庭など、関わりに課題が残るケースが多いことが分かりました。今後、家庭教育支援チームとの連携を通して、学齢期の家庭への支援も充実させていきたいと思います。
- ・子育てサロンの開催は、好評だけど、来てほしい母子は来てくれないと・・・訪問でも会いたい人には会えないのと同じだと思います。
- ・これでエエんやなと思うことも、これじゃアカンと思うこともありました。
- ・それぞれの支援員さんがもっている「エエんかな？」は 全て自分にあてはまり、参考になる意見を聞くことができました。「話しはつきない」という感じです。
- ・各地の取組みを聞き、より良く役割を分担しながら取り組む方法や、心のあり方や協力しあうコツ等、参考になりました。また、小さい頃からの取組みの大切さや、時代のギャップに対しての対応を取り入れる事等、今後の参考になりました。
- ・マイナス思考よりプラス思考で行いたい。転入者は「情報が分からないから」は、分からなくて当たり前でいいのでは？ないかと感じました。
- ・自治体によっていろいろな訪問の仕方があって、参考になりました。小1、中1のお子さんがある家庭を対象にされている方が多かったのですが、「年度の終わりで切れてしまうのが残念」とおっしゃったのが印象的でした。「その後は個別訪問にできないか」というご意見もあって、今後の展開がちょっと気になりました。

その他、気づいた点

- ・帰りの車で当町の支援員が参加して、とても勉強になったと言っていたので、支援員向けの講座は今後も継続していただきたい。
- ・自分たちがやっている事に自信をもってやればよいという事がわかってよかったです。
- ・とてもいい講座でした。悩むこともありますが、「エエ」と思ってしていきたいと思います。
- ・主催者側の方がまとめて発表して下さり、リラックスして協議に参加できました。
- ・元気をもらえた講座でした。
- ・話しをよくきく！ 話しを引きだす！ こどもの居場所作りが大切です。
- ・今回の質問形式の講座、とてもよかったです。「このことはどうなのか？」の質問に実践を答えていくので聞いていてとてもわかりやすかったです。「日高川町の現在地」のプリントとてもわかりやすかったです。
- ・他市町の話しが聞けるのがいいです。参考になります。
- ・グループ協議のまとめ役を先に決めていただいたこと、またスムーズな進行でありがたいです。工夫された会でした。